安全データシート（SDS）

JIS Z 7252:2025 / JIS Z 7253:2025 準拠

作成日：2019 年 5 月 27 日
改訂日：2026 年 11 月 13 日

1. 化学品及び会社情報	
製品名	DPG（ジプロピレングリコール）
供給者の会社名称	アーク株式会社
住所	大阪市中央区安土町 3-5-13
電話番号	06-6563-7710
FAX 番号	06-6563-7720
緊急連絡電話番号	06-6563-7710
推奨用途及び使用上の制限	推奨用途：工業用原料

2. 危険有害性の要約	
GHS 分類	JIS Z 7252:2025 に基づく分類
物理化学的危険性	
爆発物	区分に該当しない
可燃性ガス	区分に該当しない
エアゾール及び加圧下化学品	区分に該当しない
酸化性ガス	区分に該当しない
高圧ガス	区分に該当しない
引火性液体	区分に該当しない
可燃性固体	区分に該当しない
自己反応性化学品	区分に該当しない
自然発火性液体	区分に該当しない
自然発火性固体	区分に該当しない
自己発熱性化学品	分類できない
水反応可燃性化学品	区分に該当しない
酸化性液体	区分に該当しない
酸化性固体	区分に該当しない
有機過酸化物	区分に該当しない
金属腐食性化学品	分類できない
鈍性化爆発物	区分に該当しない
健康に対する有害性	
急性毒性（経口）	区分に該当しない
急性毒性（経皮）	区分に該当しない
急性毒性（吸入：ガス）	区分に該当しない
急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない

急性毒性（吸入：粉じん及びミスト）	分類できない
皮膚腐食性／刺激性	区分に該当しない
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分に該当しない
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	区分に該当しない
生殖細胞変異原性	区分に該当しない
発がん性	分類できない
生殖毒性	区分に該当しない
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分に該当しない
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分に該当しない
誤えん有害性	分類できない
環境に対する有害性	
水生環境有害性 短期（急性）	区分に該当しない
水生環境有害性 長期（慢性）	区分に該当しない
オゾン層への有害性	分類できない
GHS ラベル要素	
絵表示	なし
注意喚起語	なし
危険有害性情報	なし
注意書き	なし（GHS 分類基準に該当しないため）
GHS 分類に該当しない他の危険有害性	可燃性の液体である。強く加熱すると蒸気と空気の可燃性混合気を生じることがある。 眼及び皮膚に軽度の刺激を生じることがある。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	化学物質（単一製品）
化学名又は一般名	ジプロピレングリコール
別名	オキシジプロパノール、1,1'-オキシジ（プロパン-2-オール） （異性体混合物）
濃度又は濃度範囲	99%以上
化学式	C6H14O3
CAS RN	25265-71-8
化審法官報公示整理番号	2-413
安衛法（官報）公示整理番号	2-413
GHS 分類に寄与する成分	該当なし

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。 呼吸が不規則又は停止している場合は人工呼吸を行い、直ちに医師の手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	汚染された衣類、靴等を速やかに脱ぐこと。 付着物を布で素早く拭き取り、多量の水と石けんで十分に洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合や外観に変化が見られた場合は、医師の診察／手当てを受けること。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
眼に入った場合	直ちに多量の清浄な流水で 15 分以上洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。まぶたの裏まで完全に洗うこと。 眼の刺激が続く場合は、医師の診察／手当てを受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぎ、コップ 1～2 杯の水を飲ませて希釈すること。 無理に吐かせないこと。 意識のない者には口から何も与えてはならない。 気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	眼：軽度の刺激、発赤。 皮膚：軽度の刺激、発赤。反復又は長期の接触により皮膚炎を起こすことがある。
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	救助者は状況に応じて保護手袋、保護眼鏡等の適切な保護具を着用すること。
医師に対する特別な注意事項	症状に応じた対症療法を行うこと。

5. 火災時の措置	
適切な消火剤	二酸化炭素、耐アルコール性泡、粉末、水噴霧
使ってはならない消火剤	棒状注水
火災時の特有の危険有害性	燃焼により一酸化炭素、二酸化炭素を発生する。
特有の消火方法	可燃性のものを周囲から素早く取り除くこと。 指定の消火剤を使用すること。 高温にさらされる密閉容器は水をかけて冷却すること。 周辺火災に対応して、消火活動を行うこと。 危険を避けられれば燃焼源の供給を止めること。 移動可能な容器は、安全に行える限り火災場所から搬出すること。 消火活動は、離れた風上から行うこと。
消火を行う者の特別な保護具及び予防措置	消火作業の際は、適切な保護具（耐熱性着衣、自給式呼吸器等）を着用すること。

6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	作業の際には適切な保護具（手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等）を着用すること。 周辺を立入禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止すること。 付近の着火源・高温体及び付近の可燃物を素早く取り除くこと。
環境に対する注意事項	河川等への排出により、環境への影響を起こさないように注意すること。

封じ込め及び浄化の方法及び機材	乾燥砂、土、その他の不燃性のものに吸収させて、密閉できる容器に回収し、安全な場所に移すこと。 大量の流出には盛土で囲って流出を防止すること。 衝撃、静電気にて火花が発生しないような材質の用具を用いて回収すること。 付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置すること。
二次災害の防止策	付近の着火源・高温体及び付近の可燃物を速やかに取り除くこと。 着火した場合に備えて、適切な消火器を準備すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用すること。 周辺での火気、スパーク、高温物の使用を禁止すること。
安全取扱注意事項	皮膚、粘膜又は着衣に触れたり、眼に入らないように保護具を着用すること。 可燃性物質である。引火点は比較的高い（132℃）が、強く加熱すると空気と可燃性混合気を生じる。高温物体の表面、火花又は裸火により発火することがある。 密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を着けて作業すること。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後は手、顔等をよく洗い、休憩場所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まないこと。
接触回避	「10. 安定性及び反応性」を参照。
保管	
安全な保管条件	容器を密閉し、直射日光を避け、換気の良い涼しい場所で保管すること。 火気、熱源から遠ざけて保管すること。 酸化性物質、有機過酸化物との混合のおそれのある場所では貯蔵しないこと。
安全な容器包装材料	鋼製又はステンレス製等の容器

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	設定されていない
濃度基準値（厚生労働大臣が定める濃度の基準）	設定されていない
許容濃度 （日本産業衛生学会）	設定されていない
許容濃度（ACGIH）	設定されていない
設備対策	作業場所近くに、安全シャワー、手洗い及び洗眼設備を設け、その位置を明確に表示すること。 屋内作業の場合は、作業者が直接ばく露されない設備とするか、局所排気装置等により作業者がばく露から避けられるような設備とすること。
保護具	
呼吸用保護具	必要に応じて、適切な呼吸用保護具（有機ガス用防毒マスク等）を着用すること。
手の保護具	化学物質が浸透しない材質の保護手袋（ニトリルゴム製、ブチルゴム製等）を着用すること。
眼、顔面の保護具	保護眼鏡（側板付き）又はゴーグル型保護眼鏡を着用すること。必要に応じて保護面を着用すること。

皮膚及び身体の保護具	必要に応じて、長袖作業衣、保護前掛け等を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質	
物理状態	液体
形状	情報なし
色	無色
臭い	無臭
pH	データなし
融点／凝固点	-40 ℃
沸点、初留点及び沸騰範囲	232 ℃
引火点	132 ℃（クリーブランド開放式）
自然発火点（発火点）	310 ℃
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	12.6 vol %／2.9 vol %（上限／下限）
蒸気圧	1.3 以下／20℃
比重（相対密度）	1.02g/cm3
溶解度（水）	易溶
溶解度（溶媒）	情報なし
その他のデータ	情報なし

10. 安定性及び反応性	
反応性	通常の取扱条件下では反応性は低い。
化学的安定性	常温常圧で安定である。
危険有害反応可能性	酸化性物質、有機過酸化物と反応する。
避けるべき条件	高温、直射日光、火気、火花、静電気
混触危険物質	強酸化剤、有機過酸化物
危険有害な分解生成物	燃焼により一酸化炭素、二酸化炭素を発生する。

11. 有害性情報	
急性毒性（経口）	LD50 ラット：14,850 mg/kg LD50 モルモット：17,600 mg/kg 以上のデータより区分に該当しない。
急性毒性（経皮）	LD50 ウサギ：＞20 mL/kg（約 20,000 mg/kg 超） 以上のデータより区分に該当しない。
急性毒性（吸入）	データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性／刺激性	ウサギ 500 mg/24h：軽度の刺激 区分に該当しない。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	ウサギ 500 mg：軽度の刺激 区分に該当しない。
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。

皮膚感作性	ヒトのパッチテストで感作性はみられなかったとの報告がある。 区分に該当しない。
生殖細胞変異原性	Ames 試験：陰性 区分に該当しない。
発がん性	日本産業衛生学会、ACGIH、NTP、IARC のいずれにおいても分類されていない。 ラット及びマウスの 2 年間飲水投与試験（NTP TR-511）が報告されているが、データ不足のため分類できない。
生殖毒性	ラット及びウサギの強制経口投与による発生毒性試験で、試験最高用量まで発生影響はみられなかったとの報告がある。 区分に該当しない。
特定標的臓器毒性 （単回ばく露）	区分に該当しない。
特定標的臓器毒性 （反復ばく露）	ラット 2 年間飲水投与試験で肝臓及び腎臓に病変がみられたとの報告がある（NOAEL：115 mg/kg/day）が、ガイダンス値を上回る用量での影響である。 区分に該当しない。
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。
その他の情報	短期ばく露で眼、皮膚を刺激する。 反復又は長期の皮膚への接触により皮膚炎を起こすことがある。

12. 環境影響情報

生態毒性	魚類（ヒメダカ）48 時間 LC50：1 g/L 以上 水生環境有害性 短期（急性）：区分に該当しない 水生環境有害性 長期（慢性）：区分に該当しない
残留性・分解性	分解されにくい（化審法既存化学物質点検結果：難分解性）。
生体蓄積性	濃縮倍率 4.6 倍以下
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし
その他の有害影響	漏えい、廃棄等の際には、環境に影響を与えるおそれがあるので、取扱いに注意すること。 特に、製品や洗浄水が地面、河川や排水溝に直接流れないように対処すること。

13. 廃棄上の注意

化学品（残余廃棄物）	廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にすること。 廃棄物の処理及び清掃に関する法律、及び都道府県・市町村の規則に従って廃棄すること。 容器、機器装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さないこと。 排水処理、焼却等により発生した廃棄物についても、関係法規に従って処理を行うか、委託すること。 委託処理を行う場合は、都道府県知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者と契約すること。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行うこと。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制	
国連番号	該当しない
品名（国連輸送名）	該当しない
国連分類	該当しない
容器等級	該当しない
海洋汚染物質	該当しない
MARPOL73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質	有害液体物質（Z 類）
国内規制	陸上輸送：消防法の規定に従うこと。 海上輸送：船舶安全法の規定に従うこと。ばら積み輸送の場合は海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律の規定に従うこと。 航空輸送：航空法の規定に従うこと。
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	輸送に際しては、直射日光を避け、容器を 40℃以下に保ち、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行うこと。 火気厳禁。

15. 適用法令

労働安全衛生法	該当しない
化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律（化審法）	優先評価化学物質
化学物質排出把握管理促進法（PRTR 法）	該当しない
毒物及び劇物取締法	該当しない
消防法	危険物 第 4 類 引火性液体 第三石油類（水溶性液体） 危険等級Ⅲ 指定数量：4,000 L
海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律	有害液体物質（Z 類物質）
外国為替及び外国貿易法	輸出貿易管理令別表第 1 の 16 の項（キャッチオール規制）

16. その他の情報

改訂履歴	2019 年 5 月 27 日 作成 2026 年 11 月 13 日 改訂（JIS Z 7252:2025 及び JIS Z 7253:2025 に準拠）
参考文献	NITE 化学物質総合情報提供システム（NITE-CHRIP） 厚生労働省 職場のあんぜんサイト 環境省 化学物質の健康影響に関する暫定的有害性評価シート ICSC（国際化学物質安全性カード） 「危険物ハンドブック」、シュプリンガー・フェアラーク東京、1991 「化審法の既存化学物質安全性点検データ集」、日本化学物質安全・情報センター、1992 Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS), NIOSH NTP Technical Report TR-511

免責事項

免責事項	本安全データシート（SDS）に記載した内容は、現時点で入手可能な資料及び情報に基づいて作成したものであり、記載内容の完全性及び正確性を保証するものではありません。また、本 SDS は今後、新たな知見や法令改正等により、予告なく内容を変更することがあります。 お取引先各位におかれましては、本 SDS の情報を、当該製品を安全に取扱うための参考情報としてご利用いただき、実際の取扱いにあたっては、自らの用途・使用条件・作業環境等に応じて必要な安全対策を講じるとともに、関連法令を遵守してくださいますようお願いいたします。 本 SDS は製品の品質を保証するものではなく、本 SDS の記載内容に関連して生じた損害について、当社は責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。